
Ⅱ. 展開科目

3. グローバルヘルスサービス領域

【科目番号：4300 番台】

1.	グローバルヘルスサービス概論	[必修]	4301
2.	生命倫理と医療倫理		4302
3.	医療人類学		4303
4.	生きている仕組み		4304
5.	ライフサイクルの理解～誕生から発達・老化まで～		4305
6.	病気の仕組み		4306
7.	健康と栄養・運動		4307
8.	身体運動論		4308
9.	グローバルヘルスにおけるヘルスケアの役割		4309
10.	ヘルスサービスと経済		4310
11.	科学技術の進歩と知的財産権の基礎		4311
12.	グローバル社会と健康		4312
13.	健康教育		4313
14.	ヘルスプロモーション		4314
15.	健康と情報管理・活用		4315
16.	ヘルスサービスマネジメント		4316
17.	ヘルスイノベーションと起業		4317

2020/02/25(火)10:03

授業科目名	グローバルヘルスサービス概論		授業形態	講義
英語科目名	Global Health Service		開講学期	後期
対象学年	2		単位数	2
科目責任者	加藤 洋一		ナンバリング	4301
科目担当者				
加藤 洋一、湯浅 資之、田村 好史、ニヨンサバ フランソワ、大野 直子、白山 芳久、鈴木 美奈子、峰松 義博、阿曾沼 元博				
授業の概要				
健康は誰にとっても非常に重要であるにもかかわらず、先進国のヘルスケアシステムは年々増加する莫大な費用に対応できず、限界に達しつつある。開発途上国では、熱帯風土病が今も大きな課題であり、同時にグローバル化している。これらグローバルヘルスの課題について理解するとともに、その解決に向けての行政、企業、医療サービス提供側の対応について学習する。その前提として、人の健康がいかにして保たれているかを知り、個々人が自らの健康を管理していく時代が来ていることについて理解を深める。				
授業の達成目標				
1. グローバルヘルスサービス各論を学ぶ上で、問題の所在がどこにあるかを説明することができる。 2. 現代の国際社会に求められるヘルスリテラシーにつき、その重要性和日本の抱えている問題点について説明することができる。 3. 健康を守るというローカルな営みに、グローバルな関与が求められる理由は何なのかについて意見を述べるることができる。				
成績評価方法				
講義への出席(および参加度)、リアクションペーパー、定期試験を踏まえ総合的に評価する。				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
一方向的な講義ではなく、講師と学生が双方向に意見を交換する授業形態を目指すので、学生の積極的な参加を期待する。				
テキスト・参考書				
テキストは使わず、毎回のテーマに沿った参考文献を、担当教員より指示する。				
オフィスアワー				
各教員のオフィスアワーを確認すること。専任教員以外は原則として授業の前後とする。				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
必要に応じて授業内で返却予定。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	木南 英紀	・グローバルヘルスとは何か ・過去のグローバルヘルスの取組み例 ・今日のグローバルヘルスの課題 ・グローバルヘルスの発展に重要な 予防医学	【予習】各国における平均寿命と収入との関係を調べること。(90分) 【復習】グローバルヘルスの重要な知識・情報を世界の人々と共有することの重要性を理解すること。(90分)	
2	ニヨンサバ フランソワ		【予習】(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)	
3	加藤 洋一	現代の国際社会に求められるヘルスリテラシー	【予習】ヘルスリテラシーの定義を調べ、「グローバルな疾病負荷」(GBD)のデータベースをウェブサイトで確認しておくこと。(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)	
4	鈴木 美奈子	21世紀の健康戦略:ヘルスプロモーションの歴史・概念・実践について学ぶ。 特に、オタワ憲章とバンコク憲章を中心に学習する。	【予習】ヘルスプロモーションに関するオタワ憲章とバンコク憲章に目を通しておくこと。(90分) 【復習】ヘルスサービスの方向転換についてまとめておくこと。(90分)	
5	鈴木 美奈子	企業におけるCSRと健康経営について、ヘルスプロモーションとの関連から学ぶ。グローバル社会を意識した新たなヘルスサービスやヘルスマネジメントについて考える。	【予習】CSRや健康経営について調べておく。(90分) 【復習】CSRや健康経営とヘルスサービスとの関連についてまとめておく。(90分)	
			【予習】糖尿病とその予防について教科書・Web検索など自己学習を行う。(90分) 【復習】授業で学んだ知識について、教科書の内容を再読して知識を整理する。(90分)	

6	田村 好史	糖尿病とヘルスケアシステム	糖尿病患者数は増加の一途を辿り、今後は予防的な取り組みが重要視されている。本章では、糖尿病の現状について講義し、その問題解決法についてグループごとに討議・発表することにより、糖尿病を取り巻くヘルスケアシステムについて理解を深める。
7	田村 好史	介護予防とヘルスケアシステム	我が国は世界で最も早く高齢化が進んでおり、世界的に注目されている。寝たきり、介護は財政的にも本人家族のQOLにとっても深刻な問題として認識されているため、今後何らかの打開策が必要である。本章では、介護の現状について講義し、その問題解決法についてグループごとに討議・発表することにより、介護を取り巻くヘルスケアシステムについて理解を深める。
8	峰松 義博	多岐にわたる(氾濫する)健康関連情報を元に、社会科学の視点から、「健幸(康)」について考える	【予習】健康関連情報についてWeb検索で調べる(90分) 【復習】授業内容(健康情報)の概要を理解する(90分)
9	峰松 義博	自分や家族の健康ライフプランを考える(発表と議論)	【予習】自分や家族(親、子)の健康ライフプランを考える(90分) 【復習】健幸(康)について捉え直す(90分)
10	大野 直子	ヘルスコミュニケーション	【予習】(90分)ヘルスコミュニケーション/医療コミュニケーションの定義について調べておく。 【復習】(90分)予防・治療におけるヘルスコミュニケーションの役割についてまとめておく。(90分)
11	白山 芳久		【予習】(90分) 【復習】(90分)
12	阿曾沼 元博	情報化社会の進展と我々一人一人の関わりに関して「電子カルテシステム」を通して考える →病院内電子カルテの歴史と現状 →PHR(パーソナル・ヘルス・レコード)や遠隔医療の現状と課題 →AIの進展が電子カルテシステムに及ぼす影響	【予習】各病院が導入を推進している電子カルテシステムの概略を調べておく(90分) 【復習】医療情報の利活用に関しては、国の医療制度との関わりが強いが授業で論じる制度との関わりに関して確認する(90分)
13	阿曾沼 元博	PHRや遠隔医療の実用化プロジェクトを学ぶ →「経産省の”どこでもMy病院”プロジェクト」を解説する →最新ナショナルプロジェクトである「1000年カルテプロジェクト」を解説する	【予習】地域レベルで行われている「地域医療情報システム」や患者中心の情報利活用の実態を調べておく(90分) 【復習】新たな仕組みを構築する場合、そのコストを誰が負担するかが大きな問題となる。医療制度、医療財源の確保の観点で医療の現場の課題を自分なりに考える。(90分)
14	湯浅 資之	高齢化社会到来	【予習】高齢社会の問題についてどのようなものがあるのか、インターネット等を利用して事前に調べ整理しておくこと。(90分) 【復習】高齢化にどう向き合うべきなのか、授業で学んだ対策を整理しておくこと。(90分)
15	加藤 洋一	まとめ —地球規模の保健・医療課題に取り組むために	【予習】グローバルヘルスサービス概論を通じて最も関心を持った領域につき、自分の意見をまとめておくこと。(90分) 【復習】授業の総振り返りを行うこと(90分)

2020/02/26(水)13:29

授業科目名	生命倫理と医療倫理		授業形態	演習
英語科目名	Life Ethics and Medical Ethics		開講学期	後期
対象学年	2		単位数	1
科目責任者	長沼 淳		ナンバリング	4302
科目担当者				
長沼 淳				
授業の概要				
<p>医学医療の発展に伴い、多くの人たちがその恩恵にあずかり健康に暮らせるようになってきた。他方、その新技術は、既存の価値観では対応しきれないような事態を生みだしている。再生医療や生殖補助医療は多くの人に福音がもたらすが、他方人間存在の根幹に関わる問いを投げかけ、それに対して医療の発展に制限を設けるべきだと主張もなされている。日常的な医療の場面でも「患者主体の医療」がうたわれ、われわれ一般市民は自律した患者でいることが求められるようになってきた。新技術は際限なく進歩して構わないということはないが、かといってわれわれも旧態依然としたままでいらなくなってきており、価値観の変更や態度の修正などは避けて通れないのが現状だ。本科目では、一般市民として自律的に医療や生命科学の発展と向き合うとはどのようなことなのかについて考える。具体的には現代社会における医療分野や生命科学分野で生じている問題を取り上げ、問題点及び自らの見解をまとめ、グループワークにて議論し、理解を深め、グループ内もしくはクラス内で発表を行うといった一連の演習形式により実践的な学びを提供する科目とする。</p>				
授業の達成目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療倫理や生命倫理の対象を理解する。 2. 医療や生命科学において発生する倫理問題を説明できる。 3. 一般市民としてその問題にどのように向き合い、対処すべきかの基本的な課題を理解する。 4. 実際にその問題に立ち会った際の立ち居振る舞いを想定できる。 				
成績評価方法				
授業態度(10%)、授業内提出課題(10%)、期末試験(80%)を基本に総合的に評価する。2/3以上の出席を成績評価の前提とする。				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
<p>ニュースなどで、医学医療、生命科学などの分野で生じている問題について、倫理的に考えるとどのように解釈できるかを考え続ける姿勢を持ってほしい。そのような問題意識を前提に、倫理的に考えるとどのようなことなのかを理解できるようになってほしい。「倫理学」の講義と関連させて授業を展開するので、「倫理学」を受講することが望ましい。</p>				
テキスト・参考書				
テキストは用いない。参考図書は授業内で適宜指示する。				
オフィスアワー				
授業の前後1時間程度				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
小テストは授業内に返却する。 期末テストは次学期に返却する。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	長沼 淳	オリエンテーション ・授業の進め方、評価方法などについて説明する。 ・倫理学そのものについての概説	【予習】シラバスをよく読んでおくこと(90分) 【復習】授業の展開予定を確認し、授業に臨む基本姿勢を再確認しておくこと。(90分)	
2	長沼 淳	医療倫理の基本(1) ヒポクラテスの誓いとジュネーブ宣言	【予習】事前配布プリントを確認しておくこと(90分) 【復習】医療倫理の起源とその現代的意義を整理しておくこと(90分)	
3	長沼 淳	医療倫理の基本(2) 患者の権利とインフォームド・コンセント(IC)	【予習】事前配布プリントを確認し、自分のIC経験を書きだしておくこと(90分) 【復習】患者として医療の臨むときに準備しておくべき心構えを整理する(90分)	
		医療倫理の基本課題(1)	【予習】事前配布プリント確認し、自己決定について書き出しておくこと	

2020/03/02(月)11:02

授業科目名	医療人類学		授業形態	講義
英語科目名	Medical Anthropology		開講学期	前期(集中)
対象学年	3		単位数	1
科目責任者	佐藤 美穂		ナンバリング	4303
科目担当者	佐藤美穂			
授業の概要	健康、病気という我々にとって身近な事象を医療的観点だけではなく、社会的現象として人類学という学問手法を通じて考察する。急激なグローバル化が進むなかで近代医療を相対化し、地域、社会固有の世界観を学ぶことによって人間の身体や、健康であること、病むこと、癒されるということについて人間が持つ観念の多様性を知り、自分たちの社会におけるそれらの観念が多様性の中の一つであることを知る。そうすることにより、多文化社会における共生の意味を自ら考える力を涵養する。			
授業の達成目標	1. 健康や病気に関わる事象について、社会特有の世界観を踏まえて分析する視点を、具体的な事例を通じて説明することができる。 2. 人々の病への捉え方や健康希求行動を理解することにより、グローバルな健康課題を解決するための対策を提示することができる。			
成績評価方法	出席(70%)、期末課題の点数(30%)			
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)	異文化理解、多文化共生への理解を深めたい学生の参加を期待。			
テキスト・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・波平恵美子「医療人類学入門」朝日選書491、1994年 ・池田光穂、奥野克己共編「医療人類学レッスン:病をめぐる文化を探る」学陽書房、2007年 ・佐藤寛、藤掛洋子編「開発援助と人類学」明石書店、2011年 			
オフィスアワー	集中講義中			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	課題に対するコメントを事務を通じてフィードバック			
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	佐藤美穂	人類学から見た健康:歴史的視点	【予習】「医療人類学」という分野に関して、情報を収集し、自分なりにどのようなことを学ぶ学問かを調べておく。(90分) 【復習】1コマ目の授業を受けて、疑問点などをまとめ、2日目に共有できるようにする(90分)	
2	佐藤美穂	子どもの健康への人類学的考察	【予習】一コマ目の授業で疑問に思ったこと、自分の感想をまとめ、次の時間に発表できるようにまとめる(90分) 【復習】二コマ目の授業を受けて、疑問点などを纏め、3コマ目に共有できるようにする(90分)	
3	佐藤美穂	感染症への人類学的考察	【予習】二コマ目の授業で疑問に思ったこと、自分の感想をまとめ、次の時間に発表できるようにまとめる(90分) 【復習】三コマ目の授業を受けて、疑問点などを纏め、3コマ目に共有できるようにする(90分)	
4	佐藤美穂	女性の健康(リプロダクティブ・ヘルス)への人類学的考察	【予習】三コマ目の授業で疑問に思ったこと、自分の感想をまとめ、次の時間に発表できるようにまとめる(90分) 【復習】授業中に視聴したDVD教材で自分が感じたことを基に、さらに必要な情報を収集し、自分の意見をまとめる。(120分)	
5	佐藤美穂	事例研究1アフガニスタン家族計画プロジェクト	【予習】アフガニスタンの概要(人口、面積、民族、歴史など)について調べておく。外務省ホームページを参照にすること(90分) 【復習】「性と生殖に関する健康・権利」に関する国際的枠組み、避妊法について確認する。質問事項があればそれについて調べておく(90分)	
			【予習】Angell, Theo, 2013. Etiopia-Debire Mitimak-More than H	

2020/04/16(木)11:05

授業科目名	生きている仕組み		授業形態	講義
英語科目名	Structure of the living human body		開講学期	前期
対象学年	2		単位数	2
科目責任者	ニヨンサバ フランソワ		ナンバリング	4304
科目担当者				
ニヨンサバ フランソワ、坂井 建雄、小西 清貴、渡邊 マキノ				
授業の概要				
本講義では、文系学生等、医療系バックグラウンドをもたない学生がグローバルヘルスサービス領域等の展開科目の授業の理解を深めるために、人体の生物学的基礎知識を学ぶ。人体の構造と機能の概要の全体像、異常な状態を学ぶことにより、人体という生命体の実態を俯瞰する。また、人間の生命と社会、文化等との関連についての問題意識を深める。				
授業の達成目標				
人体がどのような構造を持ち機能しているかについて理解し、健康と疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習するための基礎とする： 1. 「幅広く深い教養」：人間の体の各パーツの構造と名前を知ることと、それらがいかに調和を保っているかを知る。 2. 「総合的な判断力」：人体の仕組みの知識は体の働き、怪我、病気を理解する基礎となる。 3. 「豊かな人間性」：人体の仕組みを知る過程で、人の命の複雑さや尊さを知り、行動できるようになる。				
成績評価方法				
期末筆記試験を重視(60%程度)する。さらに随時提出を求めるレポートと小試験(40%程度)の結果を加える。				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
世界標準テキスト「ヒューマンバイオロジー」を読んでおくこと。授業内容項目について不明な項目は教科書、参考文書及びインターネット等で調べておくことが好ましい。復習としては習った内容を復習し、宿題に出された練習問題をすることが重要である。				
テキスト・参考書				
テキスト:ヒューマンバイオロジー(人体と生命)坂井建雄・岡田隆夫監訳、医学書院(原著:Human biology, 7th Edition, Sylvia S. Madigan) 参考書:カラー図解人体の正常構造と機能 縮刷版 坂井建雄・河原克雅(日本医事新報社) 看護学入門 1巻 人体のしくみと働き 第3版 (メヂカルフレンド社)				
オフィスアワー				
別途、授業内で案内する。(事前メール(francois@juntendo.ac.jp)受付で随時対応)				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
Juntendo-Passportのクラスプロフィール機能を使用して行う。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	坂井 建雄	【人とはなんだろうか。人体をつくるもの:生命の化学、細胞の構造と機能】 私たちは何ものかを理解する。また、元素と原子、生命をつくる分子、タンパク質などを理解し、人体を構成する最小単位である細胞の構造、機能と代謝を学ぶ。	【予習】 分子、タンパク質、細胞の構造と機能について調べ、教科書の該当箇所を読んでおく(90分)。 【復習】 授業内容を整理しておくこと(90分)。	
2	坂井 建雄	【人体をつくるもの:人体の構造と調節】 細胞が集って組織、器官、器官系を形成してできる人体の基本構造、基礎的機能を知る。ホメオスタシス:生体は細胞間で情報交換し、生命活動を行うのに最適な内部環境を整え、恒常性(ホメオスタシス)を維持している。このことを体液の組成と量および体温の調節から学ぶ。	【予習】 消化器系の器官にはどのようなものがあるか調べ、教科書の該当箇所を読んでおく。また、栄養素の働きについて調べておく(90分)。 【復習】 授業内容を整理しておくこと(90分)。	
		【人体を維持する仕組み:消化器系と栄養素】 消化器系の器官と消化と吸収の生理:	【予習】	

3	渡邊 マキノ	食物を摂取し、消化し、栄養素を吸収するための消化管と、その消化吸収に関わる付属器官としての肝臓、胆嚢、膵臓についての構造と機能を学ぶ。また、咀嚼、嚥下、排便の意味を理解し、さらに、栄養素の働きと代謝についても学ぶ。	消化器系の器官にはどのようなものがあるか調べ、教科書の該当箇所を読んでおく。また、栄養素の働きについて調べておく(90分)。 【復習】 授業内容を整理しておくこと(90分)。
4	渡邊 マキノ	【人体を維持する仕組み:心臓血管系】血管の種類、構造、機能や血圧の調節について学ぶ。心臓の構造と機能:循環器系の中心である心臓について、その構造、発生と心奇形、心筋収縮のメカニズムとその調節機構、そして、心臓を栄養する冠循環系について学ぶ。	【予習】 血管や心臓の構造と機能について調べ、教科書の該当箇所を読んでおく。また、心奇形にはどのようなものがあるか調べておく(90分)。 【復習】 授業内容を整理しておくこと(90分)。
5	ニヨンサバ フランソワ	【人体を維持する仕組み:血液の組成と機能】 体中を流れ、物質や熱の運搬、内部環境の維持、感染防御、止血などの機能を持つ血液について、その成分と機能を学び、また、血液型の概略と輸血について説明する。	【予習】 「血液」の役割は何かを調べ、教科書の該当箇所を読んでおく(90分)。 【復習】 授業内容を整理しておくこと(90分)。
6	ニヨンサバ フランソワ	【人体を維持する仕組み:リンパ系および免疫系】 組織液の循環を司るリンパ系の構造と機能についても学ぶ。また非特異的と特異的防御機構を理解する。免疫により外部からの病原微生物などから体を守る一方、アレルギー反応や自己免疫疾患など生体に不都合な状況を作り出してしまふこともある。この免疫の仕組みについて解説する。	【予習】 リンパ系の構造と機能について調べておく。また、「免疫」とは何か、その仕組みについて調べ、教科書の該当箇所を読んでおく(90分)。 【復習】 授業内容を整理しておくこと(90分)。
7	渡邊 マキノ	【人体を維持する仕組み:呼吸器系】 呼吸器系の器官と呼吸の生理:細胞での物質代謝やエネルギー代謝に不可欠な酸素を取り入れ、生じた二酸化炭素を排出する呼吸器系について、その構成と機能、呼吸運動の調節について学ぶ。また、声帯での発声機構についても学ぶ。	【予習】 呼吸器系の役割について調べ、教科書の該当箇所を読んでおく(90分)。 【復習】 授業内容を整理しておくこと(90分)。
8	渡邊 マキノ	【人体を維持する仕組み:泌尿器系と排泄】 腎臓で生成された尿は、尿管を経て膀胱に溜め、尿道から排尿する。この泌尿器の構造、尿生成のメカニズム、蓄尿と排尿の調節機構について学ぶ。	【予習】 泌尿器系の器官にはどのようなものがあるか調べ、教科書の該当箇所を読んでおく(90分)。 【復習】 授業内容を整理しておくこと(90分)。
9	渡邊 マキノ	【人体を動かす仕組み:骨格系と筋系】 体幹の骨と筋の構造と生理:骨格と骨格筋、軟骨、関節の形態と構造、筋収縮の分子機構、そして姿勢や運動の制御の仕組みについて解説する。	【予習】 体幹の骨と筋の名称について調べ、教科書の該当箇所を読んでおく(90分)。 【復習】 授業内容を整理しておくこと(90分)。
10	小西 清貴	【人体に広がる情報網:神経系】 中枢神経と末梢神経の構造と機能:私たちの体の内外からの情報を集め、それを処理し、身体の機能をコントロールする神経系について、その構造と機能、情報伝達の仕組みについて学ぶ。	【予習】 中枢神経と末梢神経とは何か、その働きの違いについて調べ、教科書の該当箇所を読んでおく(90分)。 【復習】 授業内容を整理しておくこと(90分)。

2020/02/26(水)15:28

授業科目名	ライフサイクルの理解～誕生から発達・老化まで～		授業形態	講義
英語科目名	Understanding for life cycle		開講学期	後期
対象学年	2		単位数	2
科目責任者	加藤 洋一		ナンバリング	4304
科目担当者				
市村 浩一郎、羽鳥 浩三、平澤 恵理、加藤 洋一、石島 旨章、田村 好史、ニヨンサバ・フランソワ、白山 芳久、鈴木 宏哉、岩崎 友弘				
授業の概要				
健全な成人になるためには、発達期のそれぞれの時期に必要で十分な身体活動が求められる。一方、身体機能の各要素によって、発達の時期ならびに速度が異なることから、当該要素の発達に即した運動の選択が重要になってくる。また、加齢により様々な疾患を発症しやすくなり、それに対する予防的な取り組みも重要になってくる。そこで、誕生から老化までのライフサイクルに生じる身体的特徴を概説するとともに、各年齢期における運動や栄養の重要性について論じる。				
授業の達成目標				
生涯を通じて健康でアクティブな生活を送るためには、発達の各段階において運動実施が必要である。すなわち、20歳までの成長期、それ以降の加齢期において、最も適切な時期に科学的根拠に裏付けられた運動実施が求められる。ここでは、加齢により生じる病気の知識と、それらの運動をどのように実施すべきか、その考え方と科学的な根拠を教授したい。				
成績評価方法				
担当講師より講義中の課題が提示された場合は、その課題の評価を定期試験の結果に加味して最終評価を行う。				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
この授業の理解を深めるために、「人間と社会の理解」の授業科目群と合わせて受講されると、さらに理解が深まり、人間の発達を総合的に理解できるものと期待される。また各回、特色ある講義のため、授業内容項目について不明な項目はインターネット等で調べておくことが好ましい。復習のポイントなどは担当教員からの指示に従いましょう。				
テキスト・参考書				
講義時配布テキストを使用				
オフィスアワー				
専任教員は各オフィスアワーを確認すること、その他の非常勤等の教員は原則授業の前後とする。				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
授業内で返却する。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	市村 浩一郎	受精・発生・ライフサイクル、母児の健康に及ぼす出生前後の因子	<p>個体発生は系統発生を繰返す、といわれることがある。本章では、人類誕生の歴史とともに、動物としてのヒトのからだの特徴について概説し、生涯を通じて健康に過ごすための身体活動の重要性について概説する。</p> <p>【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分)</p> <p>【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)</p>	
2	市村 浩一郎	形態的発育・成長	<p>子どもは大人のミニチュア版ではないといわれるように、成長の過程で長育、量育、幅育のそれぞれが同じ割合で発育していくものではない。本章では、身体各部の発育の過程を提示するとともに、それらと身体能力の発達との関係について概説する。</p> <p>【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分)</p> <p>【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)</p>	
3	羽鳥 浩三	手指動作・歩行の習得	<p>手指は脳の出先器官ともいわれ、その機能は幼児期に急速に発達する。これはヒトの局所の神経・感覚機能の発達に依存する。本章では、手指の発達時期、ならびに動作習得の意義について概説する。</p> <p>【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分)</p> <p>【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)</p>	
4	岩崎 友弘	身体機能の発達、発達段階別に見た成	<p>この世に生を受けて間もなく、ヒトは臥位から立位へと大きな姿勢の転換を強いられる。この時期、神経系の発達とともに、身体機能や認知機能、情緒も著しく発達する。本章では、乳幼児期を中心とした</p>	

		長と発達	小児期における成長・発達とその評価方法について概説する。 【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)
5	平澤 恵理 Aurelien Kerever	神経系の発達(運動・感覚・言語機能の発達、知的・社会的発達)	立つ、歩く、走る、跳ぶなどの基礎的能力を習得した後に、全身動作が急速に発達する。これは全身を制御する脳・神経系の機能が発達する時期と一致する。本章では、このような機能がこの時期に発達する要因について、またこの時期に全身動作を習得することの意義について概説する。 【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)
6	加藤 洋一	身体のねばり強さの発達	身体のねばり強さは、全身持久力で評価され、その能力は身長の間年発育量がピークに達するあたりで急速に向上する。本章では、全身持久力が呼吸循環機能の発達に大きな影響を受ける要因について、またこの時期にねばり強さを習得することの意義について概説する。 【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)
7	田村 好史	身体の力強さの発達	身体の力強さは、筋力で評価され、その能力は骨格の成長が完成に向かう頃に急速に向上する。本章では、筋力が筋の特性に影響を受ける要因について、またこの時期に力強さを習得することの意義について概説する。 【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)
8	平澤 恵理	ライフサイクルと身体の変化(1)脳の老化	青年期以降、加齢に伴って脳機能・形態は変化する。その結果、認知症を始めとした疾患を高齢者では発症する。本章では、加齢に伴う脳形態・機能の変化について概説する。 【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)
9	加藤 洋一	ライフサイクルと身体の変化(2)心肺機能の老化	老化期にみられる身体の生理的機能の低下は、体力の低下や日常動作の変容を引き起こす。本章では、加齢に伴う体力・運動機能の変化、ならびに起立動作、歩行動作などの日常生活動作の変容について概説する。 【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)
10	石島 旨章	ライフサイクルと身体の変化(3)運動器の老化	加齢による低下で、QOLや社会的問題に直接繋がりがやすいのは運動器の老化である。本章では、加齢に伴う運動器の老化のメカニズムを解説し、高齢者の転倒問題について概説する。 【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)
11	田村 好史	ライフサイクルと身体の変化(4)代謝の老化	加齢に伴って基礎代謝量は減少する。この基礎代謝量の減少を起点として肥満が助長され生活習慣病へと進展すると考えられている。また、血糖値を下げるインスリン分泌も加齢と共に低下する。本章では、中高年の代謝と生活習慣病等の健康問題との関係について概説する。 【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)
12	ニヨンサバ フランソワ	ライフサイクルと身体の変化(5)免疫機能の老化	中高齢者では若年者に比較して感染症にかかりやすく治りにくくなる。これは、老化により免疫機能が低下することが原因と推測されている。本章では、免疫機能が加齢により低下するメカニズムやそのリスクについて概説する。 【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)
13	白山 芳久	高齢化社会の問題点と社会的施策	今後超高齢化社会を迎える我が国では、寝たきり、認知症など様々な社会的な問題が顕著となるのは間違いない。また、グローバルヘルスの視点でも、今後高齢化社会は切実な問題となっている。本章では、それらの諸問題に対する社会的施策について概説する。 【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)

2020/02/26(水)10:37

授業科目名	病気の仕組み		授業形態	講義
英語科目名	Disease Mechanisms		開講学期	前期
対象学年	3		単位数	2
科目責任者	田村 好史		ナンバリング	4305
科目担当者				
木南 英紀、田村 好史、ニヨンサバ・フランソワ、河合 祥雄、黄田 常嘉、山田 京志				
授業の概要				
人は生まれてから死ぬまでの間に、何度も健康を損なう病気になる。その原因として、免疫、感染症、遺伝、生活習慣、老化など多くの因子が含まれるが、それらを包括的に理解するためには、まず生命がどのように維持されているのかを考え、理解する。文系学生等にも分かりやすいレベルで、病気になる仕組みを体系的に学び、病気についての理解を深める。				
授業の達成目標				
人の生命はどのようにして維持され、その破綻を来す要因は何かを理解する。その結果引き起こされるさまざまな病気についての基本を知り、病気の仕組みについて理解を深める。病気から健康について考える視点を養う。				
成績評価方法				
講義中の課題(30%)、レポート(70%)により最終評価を行う				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
特色ある講義内容のため、授業内容項目について不明な項目はインターネット等で調べておくことが好ましい。復習のポイントなどは担当教員からの指示に従いましょう。				
テキスト・参考書				
講義時配布テキストを使用				
オフィスアワー				
専任教員は各オフィスアワーを確認のこと。非常勤等は授業の前後を基本とする。				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
授業内で適宜返却する。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	木南 英紀	【生命とは何か】 私達が今生きている状態は、身体にある無数の細胞が器官を作り、それらが調和して維持されている。しかも、様々なストレスに対して身体は細胞レベルで適応し、恒常性が維持される。病気を理解するために、そもそも生命とは何か、という概念を体系的に学ぶ。	【予習】 あなたが考える「生命とは何か」をまとめておくこと(90分) 【復習】 授業内容の振り返りを行うこと(90分)	
2	木南 英紀	【生体の構成成分:細胞、DNA、RNA、タンパク質】 ヒトの身体は脳、心臓、筋肉、肝臓など様々な臓器で成り立っているが、それぞれの臓器はすべて沢山の細胞によって構成されている。細胞の一つ一つは独立して機能が維持されており、その仕組みについて、DNA、RNA、タンパク質をキーワードにして学ぶ。	【予習】 DNA、RNA、タンパク質についてその働きを調べ、それぞれ200字でまとめておくこと(90分) 【復習】 授業内容の振り返りを行うこと(90分)	
3	木南 英紀	【絶え間ない流れの中にある生命:動的平衡】 ヒトは、見た目が変わらなくとも、器官を構成する細胞は常に入れ替わっている。つまり、変わらないということは、生命においては動的平衡動態が保たれていることを意味しており、その仕組みについて学ぶ。	【予習】 「動的平衡動態」とは何か、300字で考えておくこと(90分) 【復習】 授業内容の振り返りを行うこと(90分)	

4	木南 英紀	【タンパク質は壊れないと生きられない】 ヒトの器官、細胞を構成する重要な要素としてタンパク質がある。タンパク質は劣化や修飾などされることから、常に新しく入れ替える必要があることに加え、飢餓状態では、血糖値の維持のために蛋白が壊されて利用される。それらの機構や必要性について学ぶ。	【予習】 飢餓状態での「タンパク質」の働きを考えておくこと(90分) 【復習】 授業内容の振り返りを行うこと(90分)
5	木南 英紀	【生命維持は死ぬまで続く自転車操業：老化現象】 ヒトの身体の恒常性は動的平衡により保たれている。この動的平衡が崩れると病気や死に繋がる。老化がなぜ生じるのか、ということについて動的平衡の崩壊というキーワードを通して学ぶ。	【予習】 「老化」はなぜ生じるのか、考えておくこと(90分) 【復習】 授業内容の振り返りを行うこと(90分)
6	木南 英紀	【なぜガンになるのか？】 ヒトの身体では、細胞が常に入れ替わっているが、新しい細胞が正常とは限らず、一部はガン化する。遺伝レベルで傷ついた細胞がどのように生じて、がん細胞としてどのように成長するのかについて学ぶ。	【予習】 遺伝子とガンの関係について調べておくこと(90分) 【復習】 授業内容の振り返りを行うこと(90分)
7	田村 好史 河合 祥雄	【突然死の原因】 予防医学が発達した現代においても、突然死を来す人は少なくない。動的平衡という観点から、生命の危機をもたらすショックや多臓器不全について、その発症メカニズムと経過を理解する。	【予習】 突然死を動的平衡という観点から考えておくこと。多臓器不全について調べておくこと(90分) 【復習】 授業内容の振り返りを行うこと(90分)
8	ニヨンサバ フランソワ	【ウイルス、細菌、カビとの戦い：感染症】 人に感染症をおこす微生物はごく一部にすぎない。このような人と微生物のかかわりを正しく理解した上で、人に備わった微生物に対する防御のしくみと微生物がこれを突破して感染症をおこすメカニズムを学ぶ。	【予習】 ウイルス、細菌、カビの違いを調べておくこと(90分) 【復習】 授業内容の振り返りを行うこと(90分)
9	ニヨンサバ フランソワ	【免疫と病気】 免疫の働きのより人は感染症から身を守っている。その一方で、その働きの異常により自己免疫疾患、アレルギー疾患、免疫不全を発症する。これらの免疫と病気の関係を体系的に学ぶ。	【予習】 「自己免疫疾患」「アレルギー疾患」「免疫不全」の違いを調べておくこと(90分) 【復習】 授業内容の振り返りを行うこと(90分)
10	田村 好史	【病気と遺伝】 病気の中には、遺伝によって発症が大きく左右されるものがある。様々な遺伝形式によりなり易さが決まる難病や生活習慣病について学ぶ。	【予習】 生活習慣病は遺伝するか、自分の考えをまとめておくこと(90分) 【復習】 授業内容の振り返りを行うこと(90分)
11	田村 好史	【女性特有の病気】 女性に多い病気、特有の病気が幾つかある。ここでは、子宮や卵巣の病気や、食思不振症、更年期障害、骨粗鬆症などについて学ぶ。	【予習】 女性に多い病気、特有の病気を挙げられるようにしておくこと(90分) 【復習】 授業内容の振り返りを行うこと(90分)
12	田村 好史	【病気の原因・成り立ちを調べる】 病院やクリニックでは、病人をどのように診て、どのように診断して、治療に移っていくのであろうか？ Problem oriented, patient oriented, evidence based medicineといった基本的な考え方に	【予習】 病院やクリニックでは、病人をどのように診て、どのように診断して、治療に移るか、患者の立場から推察して考えておくこと(90分) 【復習】 授業内容の振り返りを行うこと(90分)

2020/02/26(水)10:37

授業科目名	健康と栄養・運動		授業形態	講義
英語科目名	Health, Nutrition, and Exercise		開講学期	前期
対象学年	3		単位数	2
科目責任者	田村 好史		ナンバリング	4306
科目担当者				
田村 好史、鈴木 良雄、加藤 洋一、町田 修一、黄田 常嘉				
授業の概要				
<p>食事・運動といった生活習慣は、私達の健康の維持や生活の質を高める、極めて重要な要素であり、生活習慣の乱れは様々な病気の発症と密接に関連している。それらの病気は総称して生活習慣病として定義され、その予防はグローバルヘルスにおいて最重要課題となっている。本講義では食生活の乱れ、運動不足がどのように病気の発症に繋がるか、どのように生活習慣病を予防し、健康を保つことが出来るのかについて、科学的根拠に基づき総合的に学ぶ。</p>				
授業の達成目標				
<p>生活習慣の乱れが健康をどのように害するのかについては、不明な部分が多い、その一つとして、重要視されているのが肥満である。肥満がなぜ生活習慣病を引き起こすのか、どの栄養の構成要素が生活習慣病の発症に関わるのかという科学的な根拠について学ぶ。また、生活習慣病の予防には、科学的根拠に裏付けられた運動を実施することが求められる。ここでは、それらの運動をどのように実施すべきか、その考え方と科学的な知識を教授したい。</p>				
成績評価方法				
講義中の課題やまとめなど(30%)と定期試験(70%)との合計点により最終評価を行う				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
<p>「生きている仕組み」「病気の仕組みと医療」と合わせて受講されると、さらに理解が深まる。また各回、特色ある講義のため、授業内容項目について不明な項目はインターネット等で調べておくことが好ましい。復習のポイントなどは担当教員からの指示に従いましょう。予習90分・復習90分を目安とする。</p>				
テキスト・参考書				
<p>講義時配布する場合もある。深く内容を知りたい場合は参考書として以下を挙げる。「栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学」「エクササイズ科学—健康体力づくりと疾病・介護予防のための基礎と実践」</p>				
オフィスアワー				
専任教員は各オフィスアワーを確認のこと。非常勤等は授業の前後を基本とする。				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
授業内で適宜返却する。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	田村 好史	<p>【健康と栄養・運動 概論】 生活習慣には、栄養、運動を始めとした様々な要素がある。本講義では、現代ではなぜ世界中で生活習慣病がなぜ増えているのか、その背景について概説し、グローバルヘルスにおける栄養・運動の重要性を教授する。</p>	<p>【予習】 なぜ今、世界中で生活習慣病がなぜ増えているのか、考えておく(90分) 【復習】 授業内容の振り返りを行うこと(90分)</p>	
2	鈴木 良雄	<p>【栄養の基礎1(三大栄養素:糖質、脂質)】 生存のために栄養は適量摂取する必要がある。ただし、それが過剰になると肥満を助長して生活習慣病に繋がると考えられる。本講義では、三大栄養素の糖質・脂質の役割と運動との関係について概説する。</p>	<p>【予習】 事前に配布するプリントを読み、三大栄養素の糖質・脂質の役割運動との関係について考えておく。(90分) 【復習】 配付資料に基づいて、授業やプリントに出てくる専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにする。(90分)</p>	
3	鈴木 良雄	<p>【栄養の基礎2(三大栄養素:タンパク質とビタミン、ミネラル)】 生存のために栄養は適量摂取する必要がある。タンパク質は特に身体の構成要素として極めて重要である。また、</p>	<p>【予習】 事前に配布するプリントを読み、三大栄養素のタンパク質とビタミン・ミネラルの役割と運動との関係について考えておく。(90分)</p>	

		ビタミンやミネラルの摂取は身体の恒常性の維持に必須である。本講義では、三大栄養素のタンパク質とビタミン・ミネラルの役割について概説する。	【復習】 配付資料に基づいて、授業やプリントに出てくる専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにする。(90分)
4	加藤 洋一	【運動の種類と効果1】 普段私達が行う運動(身体活動)は、有酸素運動とレジスタンス運動に分けられるが、それぞれの運動は生活習慣病を予防し健康を維持する手段として重要である。有酸素運動は骨格筋代謝の改善、肥満の是正に有効である。本講義では、有酸素運動を行う時の生理学的・生化学的な生体反応やその捉え方、身体活動量の評価法、目標値について概説する。	【予習】 「有酸素運動」は、生活習慣病を予防し健康を維持する手段としてなぜ重要であるか、調べておく(90分) 【復習】 授業内容の振り返りを行うこと(90分)
5	町田 修一	【運動の種類と効果2】 普段私達が行う運動(身体活動)は、有酸素運動とレジスタンス運動に分けられるが、それぞれの運動は生活習慣病を予防し、健康を維持する手段として重要である。レジスタンス運動は骨格筋量の増大や寝たきり予防のために極めて重要と考えられる。本講義では、レジスタンス運動を行う時の生理学的・生化学的な生体反応やその捉え方、目標値について概説する。	【予習】 「レジスタンス運動」は生活習慣病を予防し健康を維持する手段としてなぜ重要であるか、調べておく(90分) 【復習】 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。定期試験のための準備しておく。(90分)
6	田村 好史	【運動の種類と効果3】 有酸素運動とレジスタンス運動は疾病予防に対して重要な役割を担っているが、その基準の策定には、根拠(エビデンス)が必要である。本講義では、グローバルな視点から健康を維持するための身体活動の基準となるエビデンスを紐解き、疾病予防のために必要な身体活動量について概説する。	【予習】 疾病予防のために必要な身体活動量とはどの程度かについて考えておく(90分) 【復習】 授業内容の振り返りを行うこと(90分)
7	田村 好史	【肥満と痩せ1(欧米における肥満)】 全世界的に生活習慣病が増加している理由の一つとして、食生活の乱れや運動不足が肥満を助長していることが挙げられ、欧米諸国では深刻な問題となっている。本講義では、なぜ肥満になると生活習慣病になりやすくなるのか、についてエビデンス、メカニズムを交えて概説する。	【予習】 なぜ肥満になると生活習慣病になりやすくなるのか、調べておく(90分) 【復習】 授業内容の振り返りを行うこと(90分)
8	田村 好史	【肥満と痩せ2(アジアにおける肥満)】 東アジアでは、肥満者がそれほど多く無いにもかかわらず、生活習慣病患者が多い。食生活の乱れや運動不足が肥満になる前の段階から直接生活習慣病を増加させていると推測される。本講義では、なぜ東アジア人では非肥満者であっても生活習慣病になりやすいのか、についてエビデンス、メカニズムを交えて概説する。	【予習】 なぜ東アジア人では非肥満者であっても生活習慣病になりやすいのか、について考えておく(90分) 【復習】 授業内容の振り返りを行うこと(90分)
9	田村 好史	【健康を維持するための行動変容】 生活習慣病を予防する時には、現在の誤った行動を変える(行動変容)する必要がある。行動変容のためには、ただ知識を与えるだけでは十分でない場合	【予習】 生活習慣予防に必要な行動変容とは何か考えておく(90分) 【復習】

		が多く、科学的な根拠に基づく指導技術が必要である。本講義では、生活習慣予防に必要な行動変容について概説する。	授業内容の振り返りを行うこと(90分)
10	田村 好史	【栄養・運動とメタボリックシンドローム】 グローバルヘルスにおいて、メタボリックシンドロームは予防医学上の共通概念であり、我が国の予防医学でも中心的な指標となっている。本講義では、メタボリックシンドロームの背景、概念、メカニズム、国による対策について概説する。	【予習】 メタボリックシンドロームへの国による対策について調べておく(90分) 【復習】 授業内容の振り返りを行うこと(90分)
11	田村 好史	【栄養・運動とグローバルヘルス(1) 短命の原因】 生活習慣病の中でも、糖尿病は様々な疾患リスクとなり、短命になることが知られており、予防医学上極めて重要な疾患である。本講義では、グローバルヘルスの問題となっている糖尿病の概念、病態、治療法、予防法について概説する。	【予習】 糖尿病の病態について調べ、予防法を考えておく(90分) 【復習】 授業内容の振り返りを行うこと(90分)
12	加藤 洋一	【栄養・運動とグローバルヘルス(2) 短命の原因】 メタボリックシンドロームや糖尿病はいずれも動脈硬化症の発症のリスクとなる。特に欧米諸国では死亡原因の上位を常に占めてきており、アジア諸国と比較して発症率が高い。本講義では、それらの疾患でなぜ動脈硬化が増加するのか、地域差の原因、そこから導かれる科学的根拠に基づく予防法について概説する。	【予習】 なぜ動脈硬化が増加するのか、地域により原因にどのような違いがあるか考えておく(90分) 【復習】 授業内容の振り返りを行うこと(90分)
13	町田 修一	【栄養・運動とグローバルヘルス(3) 健康寿命の問題】 グローバルヘルスでは、高齢化に伴う要介護者の急増が問題となっている。その原因として、骨や骨格筋などで構成される運動器の機能低下が挙げられる。骨粗鬆症や筋力低下から骨折、関節障害が生じ、将来的な寝たきりに繋がる人が多いからである。本講義では、生活習慣が運動器障害に繋がるメカニズムと、そこから導かれる運動器障害の予防法について概説する。	【予習】 運動器障害がなぜ健康寿命の短縮につながるか考え、予防法を考えておく(90分) 【復習】 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。定期試験のための準備しておく。(90分)
14	鈴木 良雄	【栄養・運動とグローバルヘルス(4) ガン】 運動不足、食生活の乱れ、たばこ、喫煙などといった生活習慣は、発がんリスクとなっていることが知られている。グローバルヘルスの視点から地域により発生しやすいガンが異なることは重要な視点である。本講義では、がんと生活習慣を結び付ける疫学的な考察、背景に存在するメカニズムについて概説する。	【予習】 地域により発生しやすいガンが異なるが、それにはどのようなものがあるか調べておく(90分) 【復習】 授業内容の振り返りを行うこと(90分)
15	黄田 常嘉	【栄養・運動とグローバルヘルス(5) メンタルヘルス】 ストレスはメンタルヘルスや睡眠に大きな影響を及ぼすことが知られている。	【予習】 自身や周囲の精神内界に思いを巡らせ、メンタルヘルスを保つうえで重要なことは何かを考えておく(90分) 【復習】

2020/02/26(水)15:19

授業科目名	身体運動論		授業形態	講義
英語科目名	Exercise and the Human Body		開講学期	後期
対象学年	3		単位数	1
科目責任者	加藤 洋一		ナンバリング	4307
科目担当者				
加藤 洋一、和氣 秀文、木藤 友規、町田 修一、柳谷 登志雄、長登 健、野川 春夫				
授業の概要				
人間は、スポーツはもとより日常生活から医療や芸術活動まであらゆる場面で身体運動を必要とする。また、子供の運動能力の低下や中高齢者の運動不足による生活習慣病・ストレスの発生などの現代病が増えている。この講義では身体機能と運動のメカニズムについて理解した上で、身体運動のもつ健康的、教育的、レクリエーション的価値に留意し、人間がよりよく生きるための身体運動について考える。身体の運動が健康維持や生活習慣の予防にどのように関わっているか、またそれを推進する健康政策について、さらにはスポーツ文化との関わりについての歴史的考察など幅広い視野から、文系学生にも分かりやすく総合的に学習する。				
授業の達成目標				
1. 身体運動の重要性を理解する上で必要な知識、基礎的な動作とその発達、運動の巧みさ、ねばり強さの向上に必要な要素と方法が概説できる。 2. 生活習慣にどのような運動を取り入れることによって効率良く健康増進が期待できるかを科学的根拠に基づいて説明できる。 3. 加齢による体力の変化と、安全で有効なトレーニングを行うための留意点が概説できる。 4. 生活習慣病の予防や、障害を持つ人のリハビリテーションを兼ねたスポーツの科学的な実践方法とそれを支える健康政策について概説できる。 5. 近代スポーツの文化的特徴について論じることができる。				
成績評価方法				
講義への出席(および参加度)、リアクションペーパー、定期試験を踏まえ総合的に評価する。				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
この授業の理解を深めるために、「生きている仕組み」の授業科目と合わせて受講されると、さらに理解が深まる。また、2年次「グローバル社会と健康」受講者だった者は第1・2講の健康政策を本講第7・8講の受講前に復習しておくことと良い。その他復習のポイントなどは担当教員からの指示に従うこと。				
テキスト・参考書				
講義時配布テキストを使用するが、必要に応じて毎回のテーマに沿った参考文献が担当教員から指示される。				
オフィスアワー				
専任教員はオフィスアワー一覧表を確認のこと、非常勤等は原則授業の前後とする。				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
授業内で適宜返却する。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	加藤 洋一	ガイダンス:【身体運動の理解に必要な基礎的動作の発達とエネルギー】 ヒトは、直立・二足歩行という特有の移動様式を呈する。人類の進歩において、その脳重量の増加を支えるための直立・二足歩行の仕組みは必要不可欠な要素であったがゆえに、複雑な応用動作を獲得する前にまず、立つ、歩く、走る、跳ぶなどの基礎的な動作を身につけなければならない。本講義では、誕生から成人と同様な歩行を獲得するまでの運動発達の様相と運動に必要なエネルギー供給機構ならびに栄養摂取について概説する。	【予習】 授業内容の確認を行っておくこと(90分) 【復習】 誕生から立位歩行を獲得するまでの運動発達の様相、特にヒトが出生後どの時期に立位、歩行が可能になるかを再確認しておくことと共に、現代の運動に必要なエネルギー供給機構、栄養摂取の多様性について考えてみること(90分)	
		【成長期の体力】 体力は、からだの外部に働きかける能	【予習】	

2	和氣 秀文	力として捉えられ、力強さ・ねばり強さ・巧みさに分類されることがある。これらの体力要素は、その発達時期が異なることが知られている。本講義では、脳と神経、内臓(呼吸・循環器系)、骨格筋の発達と体力の発達の関係について概説する。	人体の構造、特に神経系、呼吸・循環器系、骨格筋系について調べておく(90分) 【復習】 体力要素の年間発達量の変化について、またゴールデンエイジとは何か、授業の内容を整理してレポートにまとめる(90分)
3	和氣 秀文	【身体運動のねばり強さの向上】 体力要素としてのねばり強さ(持久力)は、筋持久力と全身持久力として評価される。本講義では、ねばり強さの向上に必要な要素とそのためのトレーニング方法について概説する。	【予習】 「ねばり強さ」に必要な要素は何か、また「ねばり強さ」を向上させるためにはどのような方法があるか、自らの運動体験に即して考えておくこと(90分) 【復習】 筋持久力および全身持久力とは何か、またそれぞれを向上させるトレーニング方法について、授業で学んだ内容を整理しレポートにまとめる(90分)
4	木藤 友規	【身体運動の巧みさの向上と情報処理】 体力のなかで、技術に関連した構成要素として、敏捷性、バランス、協調、瞬発力、反応時間、スピードなどがあげられる。このような巧緻な運動制御を行うためには、視覚・聴覚・触覚などの感覚入力を情報処理するための脳の働きが必須である。本講義では、いわゆる「うまい」と称される巧みさの向上に必要な要素について考えとともに、脳における情報処理と身体運動の連関についても概説する。	【予習】 身体運動に関わる「骨格筋の解剖学的構造」と「運動単位(1本の運動神経とそれに支配される筋繊維群)の動員について調べておく(90分) 【復習】 運動の上達を目的として「練習」をしたときに神経系で生じる生理学的な変化をもとに、「練習する」ことの意味について、授業で学習した用語を使ってレポートにまとめる(90分)
5	町田 修一	【加齢による体力の変化】 体力は、20歳代をピークにして、その後は加齢にしたがって低下傾向を示す。しかし、その様相は体力要素によって異なる。本講義では、体力の加齢現象と、体力低下を軽減するための中高年者に推奨される運動について概説すると共に、それを支える社会政策について学習する。	【予習】 加齢によって低下する体力要素にはどのようなものがあるか、またその程度・順序には違いがあるか、体力低下を軽減するための運動とはどのようなものが考えられるかにつき調べておく(90分) 【復習】 国の高齢者対策で運動を取り入れている施策を調べレポートにまとめる(90分)
6	柳谷 登志雄	【フィジカルトレーニングの基礎原理】 からだには多様な機能があり、その適応能力は、性、年齢、健康・体力状態などによって異なる。本講義では、安全で有効なトレーニングを行うために留意しなければならない基本的な考え方について概説する。	【予習】 性、年齢、健康・体力状態により異なる適応能力にはどのようなものがあるか、考えておく(90分) 【復習】 授業内容の振り返りを行うこと(90分)
7	長登 健	【スポーツと文化】 スポーツは人間らしさを表現したり味わったりすることができる重要な文化のひとつでもある。大きく、競技志向型スポーツと健康志向型スポーツに区分されることがある。本講義では、人間とスポーツの関わりについて、スポーツが人類に何をもたらしたのかについて概説する。また特に本邦では、明治期における西欧文化への傾倒の中で、スポーツがどのように受け入れられていったかを理解することにより、様々な時代における時代的制約と社会的ニーズの関係性につき学ぶ。	【予習】 スポーツは人類に何をもたらしたのか、400字でまとめておくこと(90分) 【復習】 現代社会におけるスポーツの価値についてレポートにまとめる(90分)
		【デジタル文化と生涯スポーツ】 通信技術・AI技術が秒進日歩のスピー	【予習】 e-sportの魅力(300字)とe-sportが健康・体力づくりにどのような貢

2020/02/26(水)12:55

授業科目名	グローバルヘルスにおけるヘルスケアの役割		授業形態	講義
英語科目名	The Role of Health Care in Global Health		開講学期	前期
対象学年	3		単位数	2
科目責任者	田村 好史		ナンバリング	4308
科目担当者				
木南 英紀、加藤 洋一、田村 好史、湯浅 資之、ニヨンサバ・フランソワ、白山 芳久、田城 孝雄、大久保 菜穂子、鈴木 美奈子				
授業の概要				
グローバルヘルスにおいて、生活習慣病・感染症・ガンなどへの対策は先進国をはじめ世界共通の課題である。これらは、医療だけでは決して解決出来る問題ではなく、今後は予防的な取り組みがより重要となってくる。予防的な取り組みにより、寝たきりの期間を短くして、単に寿命を延ばすのではなく「健康寿命の延伸」することが可能となると考えられる。グローバルヘルスサービス概論で取り扱った健康に及ぼすグローバル要因をさらに掘り下げて考察し、ヘルスケアという立場から様々なステイクホルダーは、今何をすべきかを議論しながら学ぶ。				
授業の達成目標				
1.健康に大きく及ぼすグローバル要因の分析し、課題解決のアプローチを説明できる。 2.今日の高齢社会におけるグローバルヘルスの最大の課題、非感染性疾患(NCD)を多面的に理解し、その解決のための予防医学、健康増進について意見を述べる事ができる。				
成績評価方法				
講義中の課題(30%)、レポート(70%)の合計により最終評価とする。なお、3分の2以上の出席を評価の条件とする。14回、15回目の授業は重要な評価対象となるため原則出席必須とする。				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
講義内容により事前に資料を配付するので、予め読んで、グループディスカッションに臨むこと。授業に参加して、質問、討論、発表を積極的に行うこと。				
テキスト・参考書				
テキストは使わず、参考文献を、担当教員より毎回指示する。				
オフィスアワー				
専任教員は各オフィスアワーを確認のこと。その他の非常勤等の教員は原則授業の前後とする。				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
必要時にフィードバックを行う。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	湯浅 資之	【今一度”Health”を考える】 WHOの定義を読み込み、考える。その趣旨を実現するには、生活の質の充実がもたせられる。日本そして世界の国々での現状を分析し、課題を抽出して、解決への道を探る。途上国では、貧困と飢餓の撲滅、妊産婦の健康の改善、普遍的初等教育が重要。	【予習】 WHOの健康の定義を調べて、その定義に対する自分の考えをまとめておくこと。(90分) 【復習】 WHOの定義の意図を理解すること。世界の健康格差を理解すると共にその是正方法について考えること。(90分)	
2	加藤 洋一	【感染症との戦い(1):歴史と今】 天然痘を根絶し、ポリオの根絶も最終段階。しかし、今も続く感染症との戦い。抗生物質、ワクチンを考える	【予習】 死因としての感染症がどれくらいの割合があったのか、過去から現在に統計データを調べておく。(90分) 【復習】 現在のワクチンや抗生物質の抱える問題についてまとめる。(90分)	
3	ニヨンサバ フランソワ	【感染症との戦い(2):現在と将来の課題】 3大感染症、新興感染症、顧みられない熱帯病を概観する。感染症がもたらす社会・経済活動、教育・就労への影響の大きさを理解し、感染症の蔓延防止における課題を考える。	【予習】 「3大感染症」、「新興感染症」と「顧みられない熱帯病」とは何か、その仕組み蔓延防止について調べ、教科書の該当箇所を読んでおく。(90分) 【復習】 授業内容を整理しておくこと。(90分)	

4	木南 英紀	<p>【遺伝と環境】 高齢者の増加によりNCD(非感染性疾患、即ち慢性疾患)への対策がどの国でも重要になっている。NCDに遺伝と環境要素がどう関わっているか、どちらの要素が大きいかを学ぶ。キーワードは、一卵性双生児、エピジェネティクス</p>	<p>【予習】 高齢者の増加によりNCD(非感染性疾患、慢性疾患)の対策はどの国においても重要になっている。NCDに遺伝と環境因子がどう関わっているか新聞、本、ネット等で調べておくこと(90分)</p> <p>【復習】 様々な病気について、遺伝と環境のがどちらの因子が大きいかを理解する(90分)</p>
5	木南 英紀	<p>【老化は病気か?】 今までの研究成果からみる老化という生理現象を見直してみよう。サクセフルなエージングを目指すヘルスケア、予防・治療戦略を考えてみる。</p>	<p>【予習】 まず、老化はどんなことからわかるか、説明できるようにしよう。そしてなぜ老化が進むのか調べておく。(90分)</p> <p>【復習】 老化が病気の大きな要因になっていることを知り、サクセフルなエージングを目指すヘルスケア、予防・治療戦略を考えてみよう。(90分)</p>
6	田村 好史	<p>【高齢者の健康と環境】 健康高齢者、フレイル、要介護者へと移行していく。この進行を予防し、防止していく様々な取り組みを理解すると共に、進行の要因となるメタボリック症候群、ロコモ・フレイル、認知症を学ぶ。さらに、居住環境との関連についても考える。</p>	<p>【予習】 フレイルについて調べ、考えをまとめておく。(90分)</p> <p>【復習】 介護予防の観点から、どのような介入がありうるのか、考えを整理する。(90分)</p>
7	白山 芳久	<p>【データで示す健康を取り巻くグローバル要因】 例えば、国民生活・社会保障、人口、国民経済、エネルギー、農林水産・鉱工業、運輸・観光、貿易、国際収支、国際開発援助、環境などのグローバル要因をデータから考察してみよう。</p>	<p>【予習】 持続可能な開発目標(SDGs)のモニタリングのための指標について、どのような指標が設定されているか調べておく。(90分)</p> <p>【復習】 授業の内容を踏まえ、それぞれの指標について、正確なデータを得る上での課題について考えをまとめる。(90分)</p>
8	加藤 洋一	<p>【タバコのコントロール】 たばこを毎日1箱吸うと肺の細胞に異常が生じ、遺伝子の突然変異が年に150個蓄積するという。遺伝子変異の蓄積は、細胞のがん化のリスクを高める。死亡原因の第一を占めるがん。喫煙しないこと、受動喫煙を防止すること、そしてがん教育の重要性を学ぶ。</p>	<p>【予習】 たばこがどのように規制されてきたかを調べておく。(90分)</p> <p>【復習】 たばこと病気の関連について、そのエビデンスを整理してまとめる。(90分)</p>
9	大久保菜穂子、 鈴木美奈子	<p>【ライフコース・ヘルスケア】 非感染性疾患、NCDでは、胎児期から老年期まで、人のライフヒストリーに従ってヘルスケアしていくことが重要である。それには、個人の健康への自覚が大切で、健康教育が重要となる。1人1人が責任をもつヘルスケアが必要となる。</p>	<p>【予習】ライフコースでのヘルスケアについて考えてくること。(90分)</p> <p>【復習】一人ひとりのライフコースにそって、ヘルスケアをしていく方法、特に健康教育の方法について、確認すること。(90分)</p>
10	鈴木美奈子	<p>【ダイバーショナルセラピーとwell-being】 人びとの健康やQOL、Well-beingを高める支援について、グローバルな視点からダイバーショナルセラピーを通じて理解を深める。</p>	<p>【予習】ダイバーショナルセラピーについて調べておくこと。(90分)</p> <p>【復習】高齢者のみならず、様々な世代でのヘルスサービスとして、ダイバーショナルセラピーの価値や応用についてまとめておく。(90分)</p>
11	田城 孝雄	<p>【国・自治体のヘルスケア行動計画】 世界でこれまで経験したことのない高齢化の加速度的進行に対して国は、どうアプローチして、どんな対策を推進しているか。また、健康問題へのグローバル化への対応はどうか、自治体は健康寿命の伸延に具体的にどんな行動計画を打ち出しているか検証する。</p>	<p>【予習】 高齢化社会に対する自治体の対策について考えをまとめておく。(90分)</p> <p>【復習】 自分の居住する地区での自治体の活動と授業での講義内容を関連づけて整理する。(90分)</p>

2020/08/05(水)17:03

授業科目名	ヘルスサービスと経済		授業形態	講義
英語科目名	The Economics of Health Services		開講学期	前期(集中)
対象学年	3		単位数	2
科目責任者	川淵 孝一		ナンバリング	4309
科目担当者				
川淵 孝一				
授業の概要				
<p>ヘルスサービスの役割は苦痛の除去のみならず、豊かな食生活、良好な人間関係といった生活の質に深く及んでいる。しかし、グローバル市民としてヘルスサービスのあり方について改めて考えるとき、これまでの議論があまりにも政治力学や利害関係者の動機から出たものが多すぎた。その結果として、肝心の国民の実態、ヘルスサービスが社会に還元した成果という最も基本的な視点が確立されていない。</p> <p>そこで本授業では、医学、歯学、看護、介護、薬学などに「横申し」を入れる。より具体的には、忘れがちだったヘルスサービスの成果を経済学の視点から学際的に再確認しながら、そのあるべき姿を探る。</p>				
授業の達成目標				
<p>すべてが不確実だと言われる時代においてわが国を先頭に諸外国でも遅かれ早かれ未曾有の少子・高齢社会が到来することは確実である。しかしながら、ヘルスサービス分野は、規制が多く産業構造も複雑なので、未だ前近代的な部分が散見される。そこで本授業では、質の向上と経営の効率化の同時達成を実現するグローバル人材育成を目指して、ヘルスサービス分野における成功の鍵を探る。</p> <p>より具体的には、ヘルスケア業界で起こっている現象をマクロ・ミクロ経済の視点から分析する。到達目標は次の3点とする。</p> <p>①医学、歯学、看護、介護、薬学に関する諸問題を経済的視点から横断的に解決できる。 ②効率的な医療、介護、福祉のあり方について政策提言ができる。 ③医学、看護、経済、経営、会計、統計など各種の専門性の融合と相互発展をすることができる。</p>				
成績評価方法				
授業での発言状況(10%)＋課題レポート3題(10%×3回)＋口頭発表(5%×12回)を統合して評価する。				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
<p>(1)4日間の集中講義なので可能な限り、欠席・遅刻・退出は避けて欲しい。 (2)座学中心の一方的な講義を改め、極力、双方向の授業に努める。具体的には予習中心にヘルスサービスに関するケーススタディおよび口頭発表を含めて毎回、課題レポートと学生との討論を行うので、下記の教科書・参考図書を事前に学習することを勧める。 (3)チュートリアルを通じて「論理的に考える」学生の積極的参加を強く希望する。 (4)あわせて、医療経営士(3級)並びに介護福祉経営士(2級)の受験も目指す。</p>				
テキスト・参考書				
<p>テキスト:「見える化」医療経済学入門(医歯薬出版株式会社)は二回目に無償配布するので購入する必要はない。 参考書:「見える風景が変わるか～2040年の薬局」(薬事日報社)、「Introduction to Health Care Economics」(薬事日報社)、「Health Care Issues in the United States and Japan」(Chicago University Press)、「国民皆保険はまだ救える」(自由工房)、「病院の品格」(日本医療企画)、「医療再生は可能か」(ちくま新書)、「第六次医療法改正のポイントと対応戦略60」(日本医療企画)、「地域包括ケアシステムの成功の鍵(公益財団法人日本都市センター)」</p>				
オフィシアワー				
授業の前後を基本とする。(なお、本務先は東京医科歯科大学M&Dタワー6F)				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
課題提出締切後、一定の添則をして次回以降の授業内で返却する。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	川淵 孝一	オリエンテーション	医療経済学の特徴を紹介する。(90分)	
2	川淵 孝一	国民医療費の構造分析を試みる。 テキストの第3章	<p>【予習】①国民医療費の負担、②国民医療費の分配、③国民医療費の使途、④年齢階級別・疾病分類別医療費分析について事前に調べてくる。(90分)</p> <p>【復習】わが国の医療費はマクロ的に見て高いか否か、一定の文献検索を行う。(90分)</p>	

3	川淵 孝一	公的医療保険の守備範囲について考える。 テキストの第12章	【予習】①保険収載プロセスと未収載品の取扱い、②“デビルの川”と“死の谷”、③費用対効果分析の功罪について事前学習する。(90分) 【復習】国民皆保険制度の持続可能性についてレポートする。(90分)
4	川淵 孝一	わが国の診療報酬制度の現状と課題について学習する。 テキストの第2、10、11章	【予習】①混合診療禁止の原則、②保険外併用療養費制度、③「一物一価」の功罪、④分配上の弊害、⑤出来高算定から包括評価などについて事前にまとめ考える。(90分) 【復習】「いわゆる混合診療を全面解禁すべし」という議論の是非をレポートする。(90分)
5	川淵 孝一	「予防に勝る良薬なし」とされる中、スタートした特定保健指導と医療費適正化について学習する。 テキストの第4章	【予習】①終末期医療費と、②高齢者透析に関する医療経済分析について一定の文献検索を行う。(90分) 【復習】予防によって医療費が浮くかどうかレポートする。(90分)
6	川淵 孝一	セルフメディケーションのあり方について検討する。 テキストの第13章	【予習】①米国におけるMHSプロジェクトの結果、②減量指導にみるメタボ対策の効果、③OTCの費用対効果、④ワクチン行政の現状と課題、⑤PET検診の功罪などについてまとめ、どうすれば効果的な予防政策が実現できるかを行動経済学の観点から事前に学習する。(90分) 【復習】2017年1月から始まったセルフメディケーション税制の現状と課題をレポートする。(90分)
7	川淵 孝一	DPC/PDPSの現状と課題について学習した後、同制度導入による外来抗がん剤治療の変化について考える。 テキストの第5、6章	【予習】DPCの功罪と解消すべき課題について事前に考えてくる。(90分) 【復習】①DPC/PDPSによる外来シフトの有無、②外来抗がん治療の現状と課題についてまとめる。(90分)
8	川淵 孝一	“医療の見える化”が叫ばれる中で「病院可視化ネットワーク」における試みを紹介する。 テキストの第7、8章	【予習】①質の向上と効率化の同時達成に経済的動機付けは有用か、②P4Pの先行事例や③P4Pによる行動変容について文献検索する。(90分) 【復習】①電子パスの課題とその解決策、②医療安全に向けた可視化の試み、③医療事故防止対策、④クリニカルパスの科学的根拠等などについてまとめる。(90分)
9	川淵 孝一	医療の“量的効果”および「選択と集中」政策について学習する。 テキストの第9章	【予習】①“規模の経済”、②量的効果に関する先行研究、③心臓疾患・歯科分野における量的効果などについて一定の文献検索を行う。(90分) 【復習】どうすれば医療の質向上と効率化の同時達成が可能かをレポートする。(90分)
10	川淵 孝一	医師と比較しながら歯科医師の技術料の国際比較を試みる。 テキストの第10章	【予習】日米の診療報酬体系を比較した上で望まれる適正な技術料について自分なりに調べておくこと。(90分) 【復習】「ドクターフィー」と「ホスピタリティー」を分ける是非をレポートする。(90分)
11	川淵 孝一	救急医療を題材に経済学の視点から検討する。 テキストの第15章	【予習】わが国の救急医療の実態を事前に調査する。(90分) 【復習】救急車を有料化する是非をレポートする。(90分)

2020/04/16(木)11:06

授業科目名	科学技術の進歩と知的財産権の基礎		授業形態	講義
英語科目名	The Basics of Scientific Development and Intellectual Property Rights		開講学期	後期
対象学年	3		単位数	1
科目責任者	近藤 三雄		ナンバリング	4310
科目担当者				
近藤 三雄、中嶋 俊夫、峰松 義博				
授業の概要				
知的財産は、パリ条約(産業財産権)、ベルヌ条約(著作権)等としてともに100年以上にわたり、国際的な保護が図られている。我国も明治維新後速やかに加盟し、100年以上の保護の歴史があり、我国の産業、文化の発展に貢献してきた。近年の科学技術の進歩に伴い、知的財産の保護、活用は、その重要性を増している。そこで本講義では、知的財産の国際的な保護と我国における保護、活用について説明し、企業活動との関係について概説する。				
授業の達成目標				
1. 知的財産の国際的保護の枠組みを理解し、利用について理解できるようにする。 2. 我国における産業財産権の取得と活用について理解し、企業活動との関係を理解できるようにする。				
成績評価方法				
講義後の試験(60点)とレポート提出(40点)により評価する。				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
新しい技術が法的に保護される仕組みを理解して欲しい。				
テキスト・参考書				
各回ごとにパワーポイント資料を作成し、配布する。				
オフィスアワー				
近藤 三雄、峰松 義博:月曜、火曜の9時～15時				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
授業内で返却する。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	近藤 三雄	知的財産の国際的保護 著作権と産業財産権 ベルヌ条約と著作権 各国における産業財産権保護の状況	【予習】米国著作権法にいう「フェアユース」及び同法107条の規定をネットで確認せよ(90分)。 【復習】知的財産権に関する条約と我国法制度との関係を理解する(90分)。	
2	近藤 三雄	日本における知的財産保護の枠組み 我国産業財産権法(特許法等) 民法、民事訴訟法 法律の構成と法令文の読み方	【予習】損害賠償義務に関する民法709条及び724条の規定をネットで確認せよ(90分)。 【復習】 法律の要件と効果について理解を深める(90分)。	
3	近藤 三雄	発明の保護と活用 特許出願～権利化 権利の維持、活用、放棄 身の回りにある製品と発明・特許	【予習】興味のある商品についてどんな特許・発明があるか調べよ(90分)。 【復習】特許権取得の仕方、プロセスの理解を深める(90分)。	
4	近藤 三雄	科学技術の進歩と特許 科学の発展と特許 産業と特許	【予習】液晶パネルの構造についてネットで調べよ(90分) 【復習】科学技術と産業財産権の関係についての歴史と将来を考える(90分)。	
5	中嶋 俊夫	実用新案、意匠、商標(1) 各制度の特色、保護対象	【予習】事前配布パワーポイント資料に目を通して来る(90分)。 【復習】特許法、実用新案法、意匠法、商標法の目的と、保護対象の違いを理解する(90分)。	
		商標(2)、不正競争防止	【予習】事前配布パワーポイント資料に目を通して来る(90分)。	

2020/04/16(木)11:06

授業科目名	グローバル社会と健康		授業形態	講義
英語科目名	Global Society and Health		開講学期	前期
対象学年	3		単位数	2
科目責任者	湯浅 資之		ナンバリング	4311
科目担当者				
湯浅 資之、白山 芳久				
授業の概要				
<p>本講座は、開発途上国におけるグローバルヘルスの「総論」に相当する科目です。</p> <p>本科目では、世界の人々の健康課題や健康格差に関する実態を知り、そうした健康問題を解決するための基本的戦略や政策にはどのようなものがあるかを学びます。</p> <p>前半では、健康課題や健康格差、さらに国際的な政治経済に影響される国際保健の現状について学びます。また、現在の世界共通の目標となっている持続可能な開発目標や人間の安全保障についても学びます。後半では、国際的な現場で活躍する実践者をお招きして、実例を通してグローバルヘルスにおける現実と理想についての講話をお聞きし、グローバルヘルスにおける実践について理解を深めます。</p>				
授業の達成目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の人々の健康課題と健康の格差の問題について説明できる。 2. 健康に関する開発の様々な形態や歴史について概説できる。 3. 世界の健康政策の基本となるプライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、持続可能な開発、人間の安全保障等の概念を説明できる。 4. 世界の健康政策が如何に世界政治経済の情勢に影響を受けているか事例を挙げて説明できる。 5. 世界の健康政策における理想と現実について事例を挙げて問題点を説明できる。 				
成績評価方法				
毎回単元毎の試験の成績(30%)、期末試験の成績(50%)と授業参加度(20%)から総合評価します。				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
<p>本科目は、グローバルヘルスの各論を扱う「地域社会と健康」と同時に履修することが望ましいです。両科目を学習することで、本科目内容の理解が一層深まることが期待されます。</p> <p>G7サミットやアジア・アフリカ会議等における各国首脳の発言などを通して、グローバルヘルスの政策に関連する情報を収集するよう、日々のニュースを積極的に視聴するように努めてください。</p> <p>後半の「グローバルヘルスの現実と理想」の授業には多忙な中で本講義にご出席くださる外部講師が多いので、失礼のない授業態度で臨むこと。</p>				
テキスト・参考書				
日本国際保健医療学会編「国際保健医療学 第3版」杏林書院出版をテキストとして使用するので、事前に購入しておいてください。				
オフィスアワー				
湯浅資之:月曜日～水曜日の13:00～17:00 白山芳久:木曜日～金曜日の13:00～17:00 (外部講師の場合には授業の前後とする。)				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
単元毎の試験結果は次の授業内で返却します。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	湯浅 資之	グローバルヘルスとは何か	【予習】テキスト『国際保健医療学 第3版』の「グローバル化の中の国際保健」(P.4～)を事前に読んでおくこと(90分) 【復習】授業で学んだことを整理しておくこと(90分)	
2	湯浅 資之	JICA「いつか世界を変える力になる」映画鑑賞	【予習】JICA青年海外協力隊について調べておくこと(90分) 【復習】授業で学んだことを整理しておくこと(90分)	
3	白山 芳久	ミレニアム開発目標(MDGs)と持続可能な開発目標(SDGs)	【予習】テキスト『国際保健医療学 第3版』の「ミレニアム開発目標」(P.33～)と「持続的開発目標」(P.37～)を事前に読んでおくこと(90分) 【復習】授業で学んだことを整理しておくこと(90分)	
4	湯浅 資之	開発とは何か	【予習】開発にはどのような考え方やアプローチがあるのかを事前に調べておき、整理しておくこと(90分)	

2020/02/25(火)10:05

授業科目名	健康教育		授業形態	講義
英語科目名	Health Education		開講学期	前期
対象学年	3		単位数	2
科目責任者	鈴木 美奈子		ナンバリング	4312
科目担当者				
鈴木 美奈子、大久保 菜穂子、島内 憲夫				
授業の概要				
<p>本授業では、人々が健康で幸せに生きていくために必要な知識・態度・行動様式を主体的に身につけていくための支援方法を学習する。「健康教育とは何か？」について歴史を踏まえて学習する中で健康教育の世界に導く。次に「健康教育関連科学(健康行動科学)」、特に「健康行動論・動機づけ理論」について学び意欲を高める。そして「地域での健康教育・ボランティア」「生涯健康学習の課題と方法」「健康教育の計画・実施・評価」等について学んだ後、地域・家庭・学校・職場等における健康教育のあり方や具体的な課題について、小グループを形成し、グループ討議を行い、まとめのプレゼンテーションをする等の一部演習的な要素を取り入れ、最終的に実践的な健康教育の力、具体的には①地域・家庭・学校・職場等における健康教育の知識や技術、②人々のQOL向上に向け、ライフステージや生活の場の視点からの健康教育の知識・技術を身につけて行く。</p>				
授業の達成目標				
<p>健康教育の歴史および人々のQOL向上に向けたライフステージや生活の場の視点から健康教育についての基礎知識を獲得し、地域・家庭・学校・職場等における健康教育の指導に必要な基礎知識や技術を獲得する。</p>				
成績評価方法				
<p>授業への出席(20%)、受講態度/ディスカッションへの参加(20%)、提出期末課題の内容(60%)で評価する。</p>				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
<p>主体的に予習復習を行い、講義に参加することを望む。 授業計画は授業の進行状況により多少前後することがある。 適宜、参考書籍を紹介するとともに、必要な資料を配布する。</p>				
テキスト・参考書				
<p>宮坂忠夫・川田智恵子・吉田亨:健康教育論、メディカルフレンド社、2012。 島内憲夫:科学からみた健康行動、平野かよ子他編著:健康と社会・生活、メディカ出版、2016。 福田洋・江口泰正編著:ヘルスリテラシー、大修館書店、2016</p>				
オフィスアワー				
<p>専任教員オフィスアワー一覧表を確認のこと。なお、mina-suzuki@juntendo.ac.jpに前もって連絡すること。</p>				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
<p>授業内でディスカッション等をする際に共有するとともに、発表の際に解説する。</p>				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	鈴木 美奈子、島内 憲夫	オリエンテーション	<p>【予習】健康教育の概要について調べる。(90分) 【復習】授業のねらい、授業の進め方及び評価方法を確認する。(90分)</p>	
2	大久保菜穂子、鈴木美奈子	健康教育とは何か * 教育学と健康教育との関連	<p>【予習】健康教育の目的について調べる。(90分) 【復習】健康教育の目的・定義についてまとめる。(90分)</p>	
3	大久保菜穂子、鈴木美奈子	ライフステージにおける健康教育 I	<p>【予習】ライフステージについて調べる。(90分) 【復習】母子・乳幼児・子どもに対する健康教育を整理する。(90分)</p>	
4	大久保菜穂子、鈴木美奈子	ライフステージにおける健康教育 II	<p>【予習】ライフステージについて調べる。(90分) 【復習】成人・高齢者に対する健康教育を整理する。(90分)</p>	
5	大久保菜穂子、鈴木美奈子	健康教育の計画づくり I	<p>【予習】健康教育の計画について調べる。(90分) 【復習】ニーズアセスメント、目的・目標、内容について整理する。(90分)</p>	
6	大久保菜穂子、鈴木美奈子	健康教育の計画づくり II * 方法:健康相談・講演会・TVなど * 教育媒体:ポスター・ビデオ・スライド・パンフレットなど	<p>【予習】健康教育の計画について調べる。(90分) 【復習】方法・教育媒体・評価について整理する。(90分)</p>	

2020/02/25(火)10:03

授業科目名	ヘルスプロモーション		授業形態	演習
英語科目名	Health Promotion		開講学期	後期
対象学年	3		単位数	1
科目責任者	鈴木 美奈子		ナンバリング	4313
科目担当者	鈴木美奈子			
授業の概要	<p>この授業では、WHOが21世紀の健康戦略として提唱しているヘルスプロモーション概念の始まりからその発展過程について学ぶ。この概念は、グローバルヘルスの最も中核的な概念のひとつである。具体的には、「人々が自らの人生・生活の中で自らの健康を決定づける要因を、自らがよりよくコントロールできるようにしていく」ことが可能になるような支援方法(知識と技術)について学ぶ。本演習では、講義による基本的知識を学習したうえで、グループに分かれ、ディスカッションを行う。</p> <p>また、与えられた課題に関する具体的政策を事前学習し、成果を発表し、参加者全員で討議することを通して、ヘルスプロモーションの課題や活動の条件の理解を深める。</p>			
授業の達成目標	<p>ヘルスプロモーションに関するオタワ憲章とバンコク憲章を通して、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本概念を概説できる。 2. ヘルスプロモーションの成り立ちと定義を説明できる。 3. ヘルスプロモーションに基づく実際のプロジェクト事例について概説できる。 			
成績評価方法	授業への出席(20%)、受講態度/ディスカッションへの参加(20%)、提出期末課題の内容(60%)			
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)	WHOの活動と自分が住んでいる市町村の健康計画(健康日本21)について、インターネット等で調べておくこと			
テキスト・参考書	<p>* テキスト 島内憲夫・鈴木美奈子 『健康社会学講義ノート』、垣内出版</p> <p>* 参考書 島内憲夫・鈴木美奈子 『ヘルスプロモーション～WHO:オタワ憲章～』、垣内出版 島内憲夫・鈴木美奈子 『ヘルスプロモーション～WHO:バンコク憲章～』、垣内出版 市村久美子・島内憲夫編・鈴木美奈子他著『ヘルスプロモーション』、メヂカルフレンド社</p>			
オフィスアワー	専任教員オフィスアワー一覧表を確認のこと。なお、mina-suzuki@juntendo.ac.jpに前もって連絡すること。			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	授業内で課題を共有するとともに、解説を行う。			
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	鈴木 美奈子	ヘルスプロモーションへの招待 (1) オリエンテーション (2) 主体性と関係性 (3) 健康(Health)とは【ディスカッション】	<p>【予習】 康とは何か?自分自身の考えをまとめておく。 ヘルスプロモーションの概念について、事前に調べておく。 参考図書: ① 島内憲夫・鈴木美奈子 『ヘルスプロモーション～WHO:オタワ憲章～』、垣内出版、2013。 ② 島内憲夫・鈴木美奈子『ヘルスプロモーション～WHO:バンコク憲章～』、垣内出版、2012。 【復習】授業の振り返りを行う(90分)</p>	
2	鈴木 美奈子	健康(Health)とは (1) 健康とは何か【発表】 (2) 専門家の健康の定義 (3) 人びとの健康の定義(主観的健康観)	<p>【予習】WHOの健康の定義「健康とは、身体的・精神的・社会的に完全に良好な状態であって、単に病気や虚弱でないだけではない。」について、目を通しておくこと。発表準備をしておくこと。(90分) 【復習】人々の主観的健康観(健康の考え方・定義)の多様性を理解すること。</p>	

			(90分)
3	鈴木 美奈子	ヘルスプロモーションの起源と発展 (1) 1946年:健康憲章 (2) 1977年:Health for All (3) 1978年:プライマリ・ヘルス・ケアに関するアルマアタ宣言 (4) 1986年:ヘルスプロモーションに関するオタワ憲章 (5) 2005年:ヘルスプロモーションに関するバンコク憲章	【予習】WHOが1946年に提唱した「健康憲章」について調べてくる。「健康とは、身体的・精神的・社会的に良好な状態であって、単に病気がないとか虚弱でないだけではない。」の定義について、自分なりの解釈について考えてくる。(90分) 【復習】WHOについて講義で触れた部分について復習する。特に、1946年の健康憲章、1977年のHealth for All、1977年のプライマリ・ヘルス・ケアに関するアルマアタ宣言、1986年のヘルスプロモーションに関するオタワ憲章、2005年のヘルスプロモーションに関するバンコク憲章について、理解すると共にその歴史的流れを把握する。(90分)
4	鈴木 美奈子	ヘルスプロモーションの活動戦略 (1) オタワ憲章(3つのプロセス・5つの活動) (2) バンコク憲章(5つのプロセス) (3) オタワ憲章とバンコク憲章の比較	【予習】【復習】オタワ憲章およびバンコク憲章についてテキストを参考にして、予習と復習をする。 オタワ憲章における3つのプロセス5つの活動について確認をする。 バンコク憲章における5つのプロセスについて確認をする。 オタワ憲章とバンコク憲章の比較をまとめ理解を深める。 (各90分)
5	鈴木 美奈子	持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals :SDGs)とヘルスプロモーション グループに分かれて、SDGsとヘルスプロモーションとの関連についてディスカッションを行い、発表する。	【予習】健康に影響する要因について調べてくる具体的には、ラウンドレポートで明らかにされた①遺伝 ②ヘルスサービス ③ライフスタイル ④環境の健康への影響性について調べてくる。(90分) 【復習】授業の振り返りを行う(90分)
6	鈴木 美奈子	健康と社会(セッティングアプローチ) ①:健康なまちづくり I (1) 健康なまちとは (2) ヘルシーシティズプロジェクト (3) 都市と健康 (4) 住民参加のまちづくり	【予習】市町村の健康計画(健康日本21)について調べてくる。また、平成4年から始まった厚生省が提案した「健康文化都市構想」について、理解しておく。(90分) 【復習】健康なまちづくりについて学んだ内容をまとめておく。(90分)
7	鈴木美奈子	健康と社会(セッティングアプローチ) ①:健康なまちづくり II グループに分かれて、「理想の健康なまち」についてディスカッションをし、発表する。	【予習】どのようなまちに住んでみたいと思うか。健康なまちとはどのようなものか。自分の意見をまとめておく。(90分) 【復習】ふりかえりシートをもとに、気付きをまとめておく。(90分)
8	鈴木美奈子	健康と社会(セッティングアプローチ) ②:健康な学校づくり I (1) 健康な学校づくりとは (2) 健康な学校づくりを支える5つの活動 ① 健康な学校づくり施策 ② 康な学校づくりを支える環境づくり ③ 学校を中心とした地域健康づくり活動の強化 ④ 子どもが健康になるための個人技術開発 ⑤ 学校におけるヘルスサービスの方向展開	【予習】自らの学校生活(小・中・高など)を振り返り、学校での健康づくり活動についてどのようなものがあったかをまとめておく。(90分) 【復習】「理想の健康な学校づくりのあり方」について、自分なりにまとめておく。(90分)
9	鈴木美奈子	健康と社会(セッティングアプローチ) ②:健康な学校づくり II グループに分かれて、「理想の健康な学校」についてディスカッションをし、発表する。	【予習】どのような学校に通ってみたいと思うか。健康な学校とはどのようなものか。自分の意見をまとめておく。(90分) 【復習】ふりかえりシートをもとに、気付きをまとめておく。(90分)
		健康と社会(セッティングアプローチ) ③:健康な職場づくり (1) 労働と健康 (2) 職場の健康づくりの目的と必要性	【予習】企業の健康経営やCSRについて調べてくる。(90分)

2020/02/21(金)16:54

授業科目名	健康と情報管理・活用		授業形態	演習
英語科目名	Health and Information Management and Utilization		開講学期	後期
対象学年	3		単位数	1
科目責任者	阿曾沼 元博		ナンバリング	4314
科目担当者				
阿曾沼 元博				
授業の概要				
<p>人間の健康は「ライフステージ」という概念で捉える必要がある。現在の知見において「健康」と判断できるステージ、そして数値的に赤信号がともる「要注意」と判断できるステージ、その後「病期」と判断され治療を行うステージ、更に「回復期」「介護期」「終末期」等、人間が生を全うする上で多くの人々が避けて通れない道と舞台が用意されている。</p> <p>生活のQOLを維持していく上で、健康維持、生活習慣改善、病気治療、機能回復、終末期等には個々人の問題意識改革と努力の他に、多くの人々(医療・介護・福祉等のステークホルダー)や医療機関等多くの関連組織大きく関わっていくことになる。我々は乳幼児から高齢者になるまで健康に関わる多くの情報発信をする「情報提供者」でもある。</p> <p>それら情報は、健康維持や治療に関わる医療者等には重要な情報となりうる。また行政的視点では地域での医療サービス計画や医療機関設置計画にも重要な情報となる。しかし、その利活用は必ずしも充分ではない。それらの情報は多くの場合、蓄積されず、また蓄積されていたとしてもバラバラの場所で、バラバラなメディア(媒体)で管理(管理と言えるかは疑問であるが)されており、「何時でも」「どこでも」「必要な時に」「必要とする人」が利活用出来るものではない。</p> <p>また情報社会と云われる現代、残念ながら人間は一番知らなければならない「自分の情報」をマネジメント(管理し活用すること)出来ない。健康な生活を送り、なるべく人に迷惑をかけないで、責任を持って生きていく上で、情報の管理の在り方を考え、多くの壁を超える必要がある。</p> <p>本事業では、健康情報や医療資源情報を活用する方策をケーススタディーで学ぶ(マーケティング手法やデータ分析手法等)と共に、国の施策や地域での情報利活用事例を学ぶ。ケーススタディーでは、健康医療情報×ICT技術というテーマで、新たな事業(サービス)モデルを創造を行い、チーム毎にその事業性を競うこととする。</p>				
授業の達成目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康情報や医療資源情報の管理に重要性を具体的事例やケーススタディーを通じて学び理解する。 2. 健康情報や医療資源情報管理の国レベルの施策とナショナルプロジェクトの状況を学び理解する。 3. 健康情報や医療資源情報等を活用し、健康医療情報×ICTの新たな事業創造の基本を学び理解する。 				
成績評価方法				
講義への積極的な参加と問題意識の持ち方(30%)、ケーススタディーへの取り組み(30%)、レポート評価(40%)				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
本授業は、情報管理の目的を確認し、情報活用する上での課題とソリューションの方策(課題解決の方策)を学ぶものである。常に人間、社会、制度、文化に対する好奇心を持って望んで欲しい。				
テキスト・参考書				
テキストは授業開始時及び適宜配布する。基本的には配布テキストに沿って授業を進める。必要な参考文献、情報ソースは適宜紹介する。				
オフィシアワー				
授業の前後を基本とする。なお、asonuma-m@juntendo.ac.jpに問い合わせ適宜連絡も可。				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
授業内で適宜返却していく。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	阿曾沼 元博	健康・医療情報及び医療資源情報の管理の状況	【予習】健康情報や医療資源情報とはなにかを自分なりに考えピックアップしておく。(90分) 【復習】授業の総振り返りを行うこと(90分)	
2	阿曾沼 元博	健康・医療情報及び医療資源情報の利活用の状況と課題	【予習】前回授業を踏まえて利活用状況に関して調べてみる。(90分) 【復習】授業の総振り返りを行うこと(90分)	
3	阿曾沼 元博	健康・医療情報活用の実際(1) 「どこでもMy病院」プロジェクトの概要	【予習】経産省主宰のナショナルプロジェクトである「どこでもMy病院」の計画概要等を調べてみる。(90分) 【復習】授業の総振り返りを行うこと(90分)	
		健康・医療情報活用の実際(2)	【予習】小児がん患者さんがかかえている課題を調べてみる。(90分)	

4	阿曾沼 元博 (外部講師)	「どのでもMy病院」小児がんプロジェクトの概要	分) 【復習】授業の総振り返りを行うこと(90分)
5	阿曾沼 元博 (外部講師)	健康・医療情報活用の実際(3) 「千年カルテプロジェクト」の概要	【予習】内閣官房主宰のナショナルプロジェクトである「千年カルテプロジェクト」の内容等を調べてみる。(90分) 【復習】授業の総振り返りを行うこと(90分)
6	阿曾沼 元博 (外部講師)	健康・医療情報活用の実際(4) 「大規模診療データの収集と利活用プロジェクト」の概要	【予習】内閣官房主宰のナショナルプロジェクトである「SS-MIX2を基礎とし、代理機関を前提とした大規模診療データの収集と利活用システム概要」を調べてみる。(90分) 【復習】授業の総振り返りを行うこと(90分)
7	阿曾沼 元博	ケーススタディー(ヘルスケア×ICT基盤活用をベースとした新規事業創造を実践)① ?ヘルスケアにおけるICT活用の各種事業の実際や新規事業立ち上げに資する最新技術を概観するを学ぶ。	【予習】電子カルテシステム、モバイル活用のヘルスケア事業の現状を調べておく。(90分) 【復習】授業の総振り返りを行うこと(90分)
8	阿曾沼 元博	ケーススタディー(ヘルスケア×ICT基盤活用をベースとした新規事業創造を実践)② ?ケーススタディーの課題定時と事業計画の作り方を学ぶ。	【予習】事業環境分析、ターゲット分析、事業コンセプト策定の考え方を調べてみる。(90分) 【復習】授業の総振り返りを行うこと(90分)
9	阿曾沼 元博	ケーススタディー(ヘルスケア×ICT基盤活用をベースとした新規事業創造を実践)③ ?学生をグループ分けし、グループ単位でのディスカッションで事業計画を作ってみる。	【予習】授業時間以外でもグループディスカッションをしておく。PC、スマホ、タブレットなどを活用し情報収集をしておく。授業でも持ち込み必要。(90分) 【復習】授業の総振り返りを行うこと(90分)
10	阿曾沼 元博 (外部講師)	ケーススタディー(ヘルスケア×ICT基盤活用をベースとした新規事業創造を実践)④ ?新規事業の立ち上げを計画している企業担当者の話を聞く ?グループ毎に、更なる事業計画を練り、プレゼン資料を作成する。	【予習】実際の事業計画を聞き、参考にする。事業計画資料はPP5枚以内に纏める。(90分) 【復習】授業の総振り返りを行うこと(90分)
11	阿曾沼 元博	ケーススタディー(ヘルスケア×ICT基盤活用をベースとした新規事業創造を実践)⑤ ?グループ毎に、更なる事業計画を練り、プレゼン資料を作成する。	【予習】グループディスカッションを深める。(90分) 【復習】授業の総振り返りを行うこと(90分)
12	阿曾沼 元博	ケーススタディー(ヘルスケア×ICT基盤活用をベースとした新規事業創造を実践)⑥ ?学生プレゼンと講評	【予習】プレゼンでは、サービス(製品、サービス)の提供価格も設定するので、価格設定を考えておく。(90分) 【復習】授業の総振り返りを行うこと(90分)
13	阿曾沼 元博 (外部講師)	企業の健康・医療情報ビジネス戦略の実際① ?健康・医療関連ビジネス事業者の戦略を聞く。	【予習】健康・医療分野のネットビジネスの状況を調べてみる。(90分) 【復習】授業の総振り返りを行うこと(90分)
14	阿曾沼 元博 (外部講師)	企業の健康・医療情報ビジネス戦略の実際② ?健康・医療関連ビジネス事業者の戦略を聞く。	【予習】健康・医療分野のネットビジネスの状況を調べてみる。(90分) 【復習】授業の総振り返りを行うこと(90分)
			【予習】今までの授業の振り返りを行っておくこと(90分) 【復習】授業の総振り返りを行うこと(90分)

2020/02/26(水)15:30

授業科目名	ヘルスサービスマネジメント		授業形態	講義
英語科目名	Health Service Management		開講学期	前期
対象学年	4		単位数	1
科目責任者	佐藤 裕之		ナンバリング	4315
科目担当者				
佐藤 裕之、小林 弘幸、飯島 佐知子、後藤 景子、奥澤 淳司、米澤 和彦、杉村 雅文				
授業の概要				
日本における医療政策の現状を理解し、その社会的影響について多方面からの知識を深める。その上で、患者中心の医療のあるべき姿を学び、医療提供サービスのための病院の組織や、そこで働くさまざまな医療関係職種の役割を正しく理解し、チーム医療の重要性を認識する。医療提供の経済的な側面、病院の経営、医療事故とその防止、医療におけるICT(Information Communication Technology)の活用等について学習する。その後、医療提供サービスの品質を高めていくにはどのようにしていけば良いのかを考えていく。				
授業の達成目標				
1. 我が国の医療の優れた面と問題と考えられる点を述べることができる。 2. 適切な医療が具備すべき要件を理解し、その実現のための方法論を述べることができる。 3. 病院経営について、経済的な側面および医療の質・安全・効率の側面について述べるができる。 4. 医療提供サービスの品質向上の第一歩としての、医療評価の方法論について述べるができる。 5. 病院情報システム(医療におけるICTの活用)の目的、構成について述べるができる。				
成績評価方法				
講義におけるレポート評価及び期末試験により最終評価を行う。				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
講義を一方向的に聞くのではなく、自ら調べ、考え、意見を述べる積極性をもつこと。医療提供サービスの効率や品質の問題は、社会生活と切り離せない実学であるという意識をもつこと。				
テキスト・参考書				
教科書：各回資料を配布 参考書：国民衛生の動向 厚生労働統計協会、病院機能評価 評価項目解説集 公財)日本医療機能評価機構 ほか				
オフィスアワー				
授業の前後とする。				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
授業内で適宜返却する。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	佐藤 裕之	DPC制度について: 診療報酬制度であるDPCの仕組みや、 医療の標準化について理解する。	【予習】診療報酬制度に関する現在の日本の状況について調べておく。(90分) 【復習】DPC制度とはなにかをまとめる。今日の授業に関係したレポートを提出する。(90分)	
2	米澤 和彦	医療機関とは何か、医療機関の経営管理とは:組織と部門の働きおよび経営・管理について多面的に学ぶ。	【予習】さまざまな医療機関の特徴について役割を考えてくる。(90分) 【小テスト】前回授業に関する小テストを実施する。 【復習】印象に残った部門を1つあげ、その役割をまとめる。今日の授業に関係した質問を1つ考える。病院経営を構成する要素、一般産業との違いを整理する。(90分)	
3	奥澤 淳司	日本の医療保険情勢について	【予習】授業テーマについて自分なりに要点を整理しておくこと(90分) 【復習】授業の振り返りを行うこと(90分)	
4	小林 弘幸	医療における危機管理について:安全で適切な医療について学ぶ。	【予習】医療の安全性とは質の一部なのか、別のものなのかを考えてくる。(90分) 【小テスト】前回授業に関する小テストを実施する。 【復習】適切な医療の要件を自分の案として列記する。今日の授業に関係した質問を1つ考える。(90分)	
			【予習】良質な医療とは何か?社会・国民の視点、患者の視点、医	

2020/08/05(水)17:05

授業科目名	ヘルスイノベーションと起業		授業形態	講義
英語科目名	Health Innovation and Business Opportunities		開講学期	前期
対象学年	4		単位数	1
科目責任者	峰松 義博		ナンバリング	4316
科目担当者				
峰松 義博、真船 英一				
授業の概要				
<p>世界では、社会・環境問題(人口増、格差、食糧不足、気候変動他)が顕現化し、企業においては、消費者視点での環境(E)、社会(S)、企業統治(G)を重視したESG経営が求められている。</p> <p>ヘルスメディカルビジネス(健康産業)においても、これらの地球全体の課題を解決するために科学技術の進歩等を取り入れたイノベーションが必要とされている。</p> <p>健康産業分野では、病院用医薬品のみならず、一般用医薬品(OTC)、医薬部外品、食品、衛生雑貨品等の広範なセルフケア・セルフメディケーション製品(群)も生活者の健康的な生活の質(QOL)を支えている。企業が新たに提供する製品の企画、開発、事業化においては、生活者が満足する製品の機能だけでなく、法律、規制、手続き、承認・認証制度等のレギュレーションをも満たすことが求められている。更に、生物多様性保全、環境保全等と関わってくる場合もある。</p> <p>セルフケア、セルフメディケーション、QOL、持続可能な開発等の重要性を認識し、健康産業が抱える課題とそれに対する取り組みへの理解を深めて、グローバルな健康産業を担う人材に育つための基礎を固めることを本授業の目的とする。</p>				
授業の達成目標				
健康産業分野の製品・商品開発における流れ、レギュレーション、トレンドを概括的に把握し、新製品・新商品の企画、開発、事業化にあたって直面する課題に対応する為の基礎を固める。				
成績評価方法				
出席日数(60%)と提出レポート(40%)との合計点により最終評価を行う。				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
授業は多岐にわたるので事前に指定された予習資料には必ず目を通しておくこと。常に健康産業における企業活動(起業)を意識し、イメージを膨らませること。質問等は、メールでも受け付けています。				
テキスト・参考書				
予習資料等は、事前にweb検索し、指定されたものはダウンロードしておくこと。URLは授業の最初に案内します。使い方の説明が必要なURLは各担当の授業の最初に紹介します。その他は適宜紹介します。				
オフィスアワー				
前期:月・火曜日 12時10分～12時50分 場所:研究開発企画室(A棟2階)※事前に連絡				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
授業内で適宜返却する。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	真船 英一	ヘルスメディカルイノベーションの潮流と企業(起業)のあり方	【予習】書籍、インターネット等からヘルスメディカル分野における2050年に向けた問題点(課題)についてまとめておくこと(90分) 【復習】授業内容を復習しどのような起業を目指すべきか自分なりの考えをまとめる。(90分)	
2	真船 英一	くすり概論	【予習】書籍、インターネット等から“drug/medicine/medication”という言葉の持つ概念を理解しておくこと。(推奨; FDAホームページよりDrugs@FDA Glossary of Terms) (90分) 【復習】授業内容を復習するとともに、医薬品開発に関する調査により知識を深化させること。(90分)	
3	真船 英一	セルフメディケーションとOTC医薬品開発	【予習】WSMI発行Responsible Self-Care and Self-Medicationを事前に読んでくること。(90分) 【復習】授業で話題となった項目や指定された用語を再調査し理解を深める。(90分)	

